

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局

日本カトリック司教協議会主催のミサが、仙台教区カテドラル元寺小路教会で行われました。その中で、特に、小教区の方々の活動を取り上げ、掲載いたしました。「ニュースレター」49号と合わせてご覧ください。次に、いわき教会の3.11の模様をお知らせいたします。最後に、前号から掲載しております「アンケート」の自由にお書きいただいたご意見を、掲載いたしました。また、ご質問への回答も掲載しておりますので、ご覧ください。

3.10 司教団ミサ ー私たちの祈りと奉納ー

3月10日午後6時から、仙台教区カテドラル元寺小路教会において「東日本大震災 犠牲者追悼と復興祈願ミサ」が行われました。このミサは、今後3年間、すべての教区、教会を挙げて被災地支援活動に取り組むことを決定し、それを広く表明するために、日本カトリック司教協議会の主催によって行われました。

当日は、日本カトリック司教協議会副会長・高見三明長崎大司教区司教が司式し、駐日教皇庁大使ジョセフ・チェノットウ大司教、全国から集まった16名の司教たちが、約350人の信徒と共にミサを捧げました。

ミサでは、小教区で被災地支援活動を頑張っておられる方々の代表者に共同祈願と奉納をしていただきました。

共同祈願

塩釜教会 (宮城)：教会委員長 溝田知宏氏

塩釜教会は、東日本大震災により、主任司祭アンドレ・ラシャペル神父を失ったにもかかわらず、塩釜市内の復興支援のために、教会をベースに提供し、多くのボランティアを受け入れ、食事の世話などをした。

また、塩釜市社会福祉協議会がボランティア受け入れを停止したのち、ベースを閉じ、仮設住宅内の集会所で「お茶っこ」傾聴の活動に移行し、信徒たちで続けている。

溝田氏の祈り

震災で亡くなられた方々のために祈ります。震災で亡くなられた方々の魂が天の国で終わることない安らぎのうちに憩うことができますように、そして、悲しみの中にあるご遺族の方々が再び希望と生きる意味をみいだすことができますよう励まし、お導きください。



東仙台教会（宮城）：教会委員長 和野邦彦氏

東仙台教会は、東日本大震災により、教会堂が壊れ、信徒たちのミサも集会もままならない状況にあって、塩釜教会に来てくださっているボランティアたちへ、塩釜教会と交互に食事作りをし、同時に、桂島でのボランティア活動を継続している。

和野氏の祈り

東日本大震災によって、未だ立ち直れず、追い迫る新たな不安をも抱える厳しい現実、苦しみ、痛み、不安のただ中にいる兄弟姉妹に心を合わせて祈ります。「わたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆいえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った」と語られる主よ、あなたにしか頼るすべのない小さくされた一人ひとりに、今こそ救いのみ業を現してください。



北仙台教会（宮城）：芳賀ヒロ子さん

北仙台教会は、震災直後から、教会で備蓄用に保管していた食材を、「今こそ」ということで、炊き出しを始め、近隣の人々や道行く人々に大変感謝されました。その後も、仮設住宅での「お茶っこ」傾聴などを続けています。

芳賀さんの祈り

大震災で家族、住まい、仕事、人との交わりを奪われ、自宅、仮設住宅、避難先で不自由で不安な生活をしている方々のために祈ります。その悲しみ、苦しさ、悔しさを少しでも癒してください。心と生活の再建のために必要な希望と勇気が与えられ、私たちも祈りでその方々の思いを受けとめ、寄り添うことができますように。

さいたまサポートステーションもみの木（福島）

：いわき教会 佐藤賢二氏

※「もみの木」の担当者が参加できなかったため、いわき教会の佐藤氏に代読していただきました。

NPO福島やさい畑：西仙台教会 教会委員長 上野 隆氏

※「福島やさい畑」の担当者が参加できなかったため、野菜販売を支援している西仙台教会の上野氏に代読していただきました。



奉納

松木町教会（福島）：お茶っこ傾聴に使用する茶碗と茶せん 奉納者：鈴木キミ子さん

いわき教会（福島）：被災し、放射能問題で仕事が出来ない漁業者が作るお餅
奉納者：佐々木三代子さん

八木山教会（宮城）：全国から集められた和服生地を使って作られた雛人形
奉納者：野田和雄さん

一本杉教会（宮城）：被災した方々が作った七夕飾り 奉納者：淀川喜正さん



3 回目の 3.11（東日本大震災の日）が巡りきて

カトリックいわき教会 チーム平・堂根 佐々木 三代子

いわき教会は、2013 年から、東日本大震災により犠牲になられた多くの皆様のための追悼ミサを、海により近い小名浜教会で捧げることになりました。

今年もこの 3 月 11 日、午後 2 時にごミサ開始、そして 2 時 46 分に鳴らされた鎮魂の鐘に心を合わせ、一同、黙祷をささげました。

その後、50 名ほどの参加者全員が海に続く三崎公園に移動し、改めてロザリオを捧げ、砂浜を波打ち際へと進み、それぞれに白いカーネーションを献花しました。



この日は、春を思わせるかのように天高く、澄んだ青空が広がっていましたが、冷たい海風が頬を打ち、あの日もこんなだったのだろうかという思いがよぎりました。

地平線近くゆっくりと航行する大型船を眼にしながら、お亡くなりになられた皆様の御魂の安らかならんことを祈りつつ、この追悼の日の集いを終えました。

第3回 小教区による東日本大震災復興支援活動アンケート結果（項目5）

5. 活動に関する課題・希望及び仙台教区の東日本大震災復興支援活動に関してのご意見 ご感想など。

青森県

五所川原

- ・小さな教会で高齢者ばかりなのでいろいろな支援活動に協力できず、恐縮に思っている。

十和田

- ・教区サポートセンターの支援活動については、本当に頭が下がります。当教会は大きな被害もなく、また高齢の信徒が多いため、現地に出向いての支援活動もできぬまま過ごして参りました。震災の記憶を風化させないことが私たちのつとめであると信じ、復興を念じてやみません。

浪打

- ・代表者(田口)の勤務する短大あげて、今まで4回（延べ71名）をカリタスペースへ派遣してきた。参加した学生たちへ継続的なボランティアの必要性をメール等で知らせてください。
- ・継続した活動の必要性、誰にでもできるボランティアの内容等を小教区に伝えてほしい。

野辺地

- ・信徒の事情があり、ボランティアとして現地に出向くことはできないので、自宅のできる支援を考え、実施している。

八戸塩町

- ・福島原町教会とのつながりは、福島原発事故の被災は、六ヶ所の核燃料サイクルや大間原発（建設中）の事故の危険性につながるために活動は終了することなしに続けていきたい。それ故、祈りと募金、訪問活動を続け、原発事故に真正面に向き合う努力をし続けたい。

本町

- ・これからも、支援活動が求められることだと思いますが、活動報告やボランティアの求人などの情報発信をお願いしたい。
- ・カトリック教会としての支援活動が、福音宣教や洗礼者数の増加につながっているかについての情報がほしい。



「いのりのふうせん」（塩釜教会）



ボランティア宿泊所として提供していた頃の塩釜教会

岩手県

一関

- ・甚大な被災地気仙沼、大船渡にかかわりをもつ信徒も多く、個人的にはいろいろな支援をしているかと思いますが、教会としては教区で決めた以上のことはしませんでした。これら活動は表立っているべきこととは思いませんので特段アンケートに添えておりませんでした。イエス様のいわれる通り、右手の業を左手に知らせないこともあると思っておりますので……

大船渡

- ・多大なご支援とお祈りをありがとうございます。平賀司教様はよく大船渡にいらしていただきますが、他の神父様方はあまりお見えになりません。現地を実際に見ていただき、どんどんボランティアを送っていただけると幸いです。
- ・本格的な復興がようやく始まろうとしている時にボランティアの数が減ってきています。できる活動は必ずあります。どうぞ被災地にボランティアさんを送ってください。

北上

- ・北上教会は、その年の役員になった人たちが中心となって協力者を募り、出来る形をとっているため毎年活動がかわる。2013年以前は、物資を集めて送った。きちんとしたリーダーを決め、連絡をとりあいたい。

千厩

- ・小さい教会で皆さん高齢他で動くのが充分ではありません。(被災地より千厩教会に越してきた信徒さんの多大なご協力を得ました。)

水沢

- ・ニュースレターや4→6・45通信で活動内容がよくわかります。



2012年わかちあいマーケットの様子（宮古教会）

宮古

- ・今までの支援活動で継続していけることは続けて欲しい。
- ・「被災者に寄り添う支援とは、どのようなものか」はいつも見直したり、検討をする必要はある。寄り添える被災者が限定されてしまっている事には憂慮する。
- ・必要情報（活動内容や必要物品、協力要請、ボランティア希望など）の公開、ネットワークの必要性を強く感じている。(小教区での、仮設での、地域から市町村から全国の…)
- ・趣味の活動をボランティア活動に発展させることもできる。
- ・わかちあいマーケットに関して、以下の3つの課題から今後の活動の見通しが立っていない状態。毎回300人くらいの来場、利用者があることから、もう少し続けて行きたいが、課題解決が必要である。消極的協力ではなく、積極的協力が重要、必要となる。

宮古教会の課題

- ①活動資金（支援金ストック）が無くなったこと
- ②活動する信徒の士気低下、人員不足
- ③必要な支援であるかの見極め（要望はあるか本当に必要か）

盛岡上堂

- ・仙台教区報、カトリック新聞で平賀司教様をはじめ皆さまが大変努力しておられるご様子を知り、私たちも努力しなければならないと感じている。

宮城県

石巻

- ・石巻ベースと教会との協力体制ができていないように思う。ベースからはイベントなどの案内があり、例えばこんな支援活動を考えているので、手や知恵をかしてくださる方はいませんか、いっしょに活動しませんか？などの呼びかけがない。

一本杉

- ・仙台教区サポートセンター企画で研修会を一度企画実施されたが、今後の予定はあるか？

北仙台

- ・仮設住宅が閉鎖されるまで支援活動は継続する（2～3年くらい？）ルーチンの活動以外に困っているところがあれば、今後も支援活動を行って行きたいと考えている。

気仙沼

- ・震災直後、預金の引き出し制限のため手持ち現金が不足しがちだった折、早々に教区から生活支援金が配られ大変感謝しております。

塩釜

- ・支援活動を継続するには活動資金が課題となります。時々、個人や団体から支援金としての寄付金はありますが、定期的な活動資金の援助があると助かる。

古川

- ・被災地教会の巡礼を行っているが、巡礼に終期はあるのだろうか？終期設定が難しい。

元寺小路

- ・仮設住宅の方からのご希望がある限り活動を継続する。



八木山

- ・仮設側からの終了希望があるまで継続したいと考える。(復興住宅の建設状況から考えると早くて2014年9月、遅くとも2015年3月と思われる。
- ・課題として、以下の3つが残る。

課題①参加者のモチベーション

②教会員の負担継続が出来るのか疑問がある

③教会の状況・地区割等の影響を受ける可能性がある。

米川

- ・米川ベースの皆様、聖母訪問会のシスター方からたくさん力をもらっています。ありがとうございます。

福島県

会津若松

- ・いわき教会の「チーム堂根」の活動支援は、個人とダルクさんから始まったが、ぜひ教会の資金援助（賛同）をお願いするが叶わない。

いわき

- ・3.11以降、原発で分断されたため、教区との関わりも希薄にあるいは途絶えた状態になり、私たちは小教区のボランティアとして、いかにすべきか否応なしに自分たちで考え、活動を進めることになった。このように突然に向き合うことになった大きな課題に、真剣かつ積極的に取り組む機会を得て、今後の緊急時に教会としてどのように取り組むべきかを日頃から頭において生活し、備える必要性を充分感じるようになった。
- ・原発からの避難者の将来の指針が国や自治体からはっきり示されない、除染が進まないという中途半端な状態からいつ脱却出来るのか希望が見える方針が示されない限り、精神的疲弊が進み、手助けにも限界が見え隠れするような気がしてきた。

仮設の方々とお花見 (松木町教会 愛の支援グループ)



郡山

- ・CTVC、カリタスジャパン、そして各教会の皆さまの支援サポートに感服している。郡山、教会では、呼びかけに応える方がいない。小教区としての活動や個人ボランティアの取りまとめをして下さる男性を中心にしたいと考えておりましたが……

二本松

- ・高齢者にとって支援したい気持ちはあるが、「活動」はできないので寄付のみしかできない。だが、もっと高齢者にもできることがあれば教えて欲しい。
- ・教会員の現状（年齢、仕事）を考慮すると、現状以上のことはあまり望めない。

野田町

- ・平賀司教様を中心に各地に組織を立ち上げ、カリタスジャパンと力を合わせて復興に取り組んでいる姿に感謝している。

原町

- ・活動は、資金が尽きたら一度やめる予定（2014年3月）
- ・布の支援は届くが、縫い物材料（パッチワークのキルト綿、ファスナー、糸、手芸綿など）は購入しないと揃わない。領収証がなくてもいい自由に自分で出し入れできるお金が必要。ガソリン代も含めて。

各教会のご質問・ご要望に答えて

- ・継続的なボランティアの必要性をメールなどで知らせてほしい（浪打、本町）。

以前から、ボランティアさんが減少しているので、もっと、ベース活動に参加していただきたいという願いをしておりましたが、もっときめ細かいボランティア情報を出さなければならぬと、反省をいたしました。



情報をお望みの教会、またご担当者は、メールアドレスを仙台教区サポートセンターまで、お知らせください。随時、ご連絡をさしあげたいと思います。

メールアドレスは、sdsckoho@gmail.com です。（担当：長谷川昌子）

なお、「カリタスジャパンブログ」にも、情報を出すように心がけておりますので、ご覧いただければ幸いです。

今後、情報を出しますので、よろしくお願い申し上げます。

- ・もっと高齢者にもできることがあれば、教えてほしい（二本松）。

各ベースではお茶っこを行っています。エネルギーがありあまっている方には、物足りないと感じる方もあるようですが、傾聴のために、とても大切な場となっています。

あるベースでは、具体的に、シニア世代の方々が、お茶っこの担い手として、活躍しておられます。ただ、ベースに寝泊まりする生活ですから、それができる方ということになります。

- ・その一方で、大船渡教会は、「本格的な復興がようやく始まろうとしている時にボランティアの数が減ってきています。できる活動は必ずあります。どうぞ被災地にボランティアさんを送ってください」と訴えています。

- ・仙台教区サポートセンター企画で研修会を一度企画実施されましたが、今後の予定はあるのか？（一本杉）。

以前、仙台の元寺小路教会を会場に、「傾聴」についての研修会を2回、一本杉教会で1回、青森県と岩手県、福島県で各1回、それぞれ同じ講師をお願いして、「傾聴」の講演会をひらきました。

現在のところ、具体的な企画は立っていません。しかし、こういう研修会をしてほしいというご意見をお寄せいただければ幸いです。

- ・定期的な活動資金の援助があると助かる（塩釜、会津若松、原町）。

年間に一度ですが、仙台教区が、支援活動に対して、1教会の支援活動に対して、あるいは1支援グループに対して、申請書の審査の後、10万円を援助しています。

どうぞ、申請書を教区事務所にお出してください。